

訪問入浴サービス提供時の視界と羞恥心への配慮

訪問入浴サービス提供時の視界



訪問入浴サービスは、看護師、ヘルパー、オペレーターの3名1チームでご自宅に訪問します。オペレーターは、移動入浴車の運転やメンテナンスをはじめ、入浴機材の準備片付け、各行程の流れの確認、チェックを行います。男性スタッフを配置する場合には、女性のご利用者の羞恥心に最大限配慮した上でサービス提供が行われています。

それではご利用者は、その羞恥心への配慮についてどのように感じているのでしょうか。その一助となるのが、サービス提供中の「視界」です。上のイラストは、ご利用者からの視界を表しています。

ご利用者から見える範囲は意外と狭く、通常は足元側しか見えていないかと思います。ご利用者の頭側に男性スタッフを配置することを推奨しており、視界に男性が入らないことで、女性利用者への羞恥心に配慮しています。

羞恥心への配慮



訪問入浴サービスでは、タオルなどを使用して、ご利用者の羞恥心に配慮しながら脱衣、入浴サービスを行います。

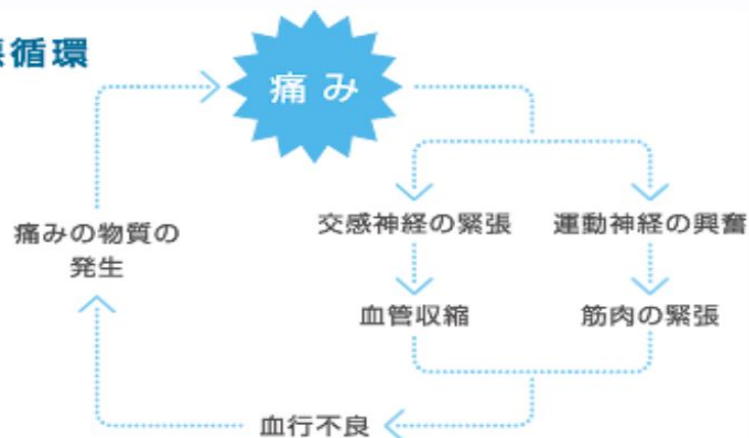
また、ご利用者自身での洗身を促すことにより、自立支援にも繋がるため、腹部、陰部等を洗う際はご協力いただく場合があります。





入浴の温熱作用・静水圧作用による痛みの緩和

痛みの悪循環



慢性の痛みがあると、交感神経が緊張し、血管が収縮し、筋肉が攣縮します。そうすると、局所の血流が低下し、乏血(虚血)状態になり、組織の酸素が不足するので、局所では痛みの物質が発生し、さらなる痛みが起こるといふ悪循環が起こります。

痛みには打撲や化膿によって急に生じる急性疼痛と何日間も続く肩関節痛、腰痛、膝関節痛のような慢性疼痛があります。特にがん性疼痛は、どの病期にも発生しますが、がんの進行とともに発生頻度が高くなり、末期では約70%の方が主要な自覚症状になると言われています。また持続性の痛みが多く、約50%は強い痛み、約30%は耐え難いほどの強い痛みとして訴えています。

持続性の痛みは、患者(利用者)の心の状態にも影響します

- ・不眠や食欲低下の原因となる
- ・考えが痛み集中してしまうため、他のことを考えられない⇒何もできなくなる
- ・痛みを我慢するだけの無意味な毎日を強いられる生活になってしまう
- ・さらに不安やうつ状態を引き起こすことで、痛みのしきい値(痛みを感じる刺激値)を低下させる場合もある

☆痛みの悪循環を抑える入浴による温熱作用

痛みの悪循環で示したように、慢性疼痛部位では筋肉の緊張が続いているために血液の流れが悪くなり老廃物や痛みの物質が発生しやすくなっています。このような慢性疼痛部位を入浴で温めることにより、血管が拡張して血液の流れがよくなり、老廃物を流しやすくすることで、痛みは和らぎます。

他にも得られる入浴方法

- ☆入浴による静水圧作用でむくみの軽減や軽いマッサージ効果
- ☆気分転換は精神的に患者(利用者)を痛みから解放する方法のひとつですが、気軽に外出や外泊ができる方ばかりではありません。自分のところにお風呂が来てくれる訪問入浴介護で気分転換をはかりましょう。

訪問入浴介護へのお問い合わせはこちらまで